

明治三十三年分

外務省

3-1188

0155

世三
受

主
管
政
務
局

大
井
氏

發
第
一
〇
九
號

受
第
八
四
號

貨
幣
制
度
取
調
報
告
ノ
件

次
官

去ル明治二十四年韓國貨幣條例制定以後今日迄ノ貨幣ノ
關スル規定ノ全文并ニ其制定ノ事情ハ此際取調報告方及
向後右ノ關スル事項并ニ貨幣鑄造發行高ハ其都度報
告方大藏大臣ヨリ依頼有之テ間右取調報告可致旨送
第七二號ヲ以テ御未示相成テ承致ス

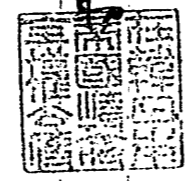
抑當國ノ貨幣條例ナクハ去ル明治二十七年七月金宏集
内閣ノ當時專ラ日本ノ制度ニ擬シ發布シタルモノ即其概
夫ニシテ從是以前ノ別ニ條例ト稱スハキク存在不致矣
而シテ金内閣時代ノ條例ハ少クトモ其一部ニ依然今日
施行セラレ居テ間右寫為御參考差出矣將又現行貨
幣ノ種類及數額ヲモ調査ノ上添付設置テ間為參

在韓國日本公使館

考其如何御回附相成度至其段回答得貴意ヲ敬白ス
明治三十三年十二月廿二日

在韓

特命全權公使林權吉



外務大臣平定財青木周藏殿

別紙

新式貨幣發行章程

第一條 新式貨幣分為四種 一曰銀 二曰白銅 三曰赤銅

四曰黃銅

第二條 貨幣最低位為分十分為錢十錢為兩

第三條 貨幣分為五等 最低位一分為黃銅 其次五分為

赤銅 其次二錢五分為白銅 其次一兩及五兩為銀

第四條 五兩銀為本位貨 一兩銀以下總為補助貨 一兩

銀貨之一次與受以一百兩為準 白銅貨以下之一次與

受以五兩為準 但與受者互相肯諾 不在此例

第五條 新舊貨幣一體通用 以廣融匯 其比例如左

黃銅一分 當舊錢一枚

赤銅五分 當舊錢五枚

在韓國日本公使館

白銅二錢五分 當舊錢二十五枚

銀一兩 當舊錢一百枚

銀五兩 當舊錢五百枚

第六條 凡各種稅項及俸給以銀貨為定者 務用銀貨

或因時宜可代用舊錢 其以舊錢為定者 照第五條

比例可代用銀貨

第七條 新式貨幣多額鑄造之先得暫混用外國貨幣

但與本國貨幣同質同量同價者始許通行

別紙二

現行貨幣明治三十一年度支部調査高

五兩銀 九千貳百元

本位貨

一兩銀 九萬七千參百四拾九元六拾錢補助貨

白銅 四拾六萬參千九百元 同上

赤銅 六拾貳萬貳百五拾四元 同上

黃銅 壹千五百參拾元 同上

舊錢 (一文錢 當五錢) 凡貳百萬元 同上

右ノ外昨年及本年年度鑄造ノ白銅赤銅貨五拾萬元ノ

加ニ總計現行貨幣參百六拾九萬貳千貳百參拾參元

六拾錢トス

本文ノ元ハ貨幣章程ノ五兩ニ當リ錢ハ其五分ニ當ル

一元ノ現今ノ相換金九拾錢九厘トス

在韓國日本公使館

明治三十一年十二月 在韓國帝國公使館調査

官報部送付済

在朝鮮國南浦日本領事館

鎮守府 〇八号

通達

明治四十一年一月廿二日

受第 一七一 号

送付のハ、早ク、以テ、本國貨幣ノ市場ニ於テ、暴落
調査、上時々報告可致、而シテ、中越ノ暴落、承即々
別帝、調査ニ関、委細ハ、右ニシテ、知相成、度、此、為
回答、中、進、ニ、至、テ、終、ル、

明治四十一年一月廿二日

在鎮守府

領事館事務代理 桐野



通商局長 杉村 清 殿

明治四十一年一月廿二日

キコノ

富國ニ於テハ通貨ハ青銅華錢(有ハ銀)一多黃銅(一)
 五分赤銅(一)二多五分(五)一兩銀(一)五兩銀(一)外
 ニ亦邦舊銀貨ノ七種トス
 一華錢 通貨中ニテ信用多ク、富國中到ハ處通用
 ナルナリト云ハ唯ハ谷量過大ニテ携帶ニ不便ナリ故ニ
 多額ヲ運搬スルハ車馬ノ力ヲ頼リテ可カラス
 一一分黃銅 京城ハ方ニ流通スル者如附近ノ勿論
 昔海道ニ於テモ更ニ流通スルコトナシ
 一五分赤銅 富港附近ニテハ旧邦銀貨ニ亞テ流通
 スルニ際テ、村落ニ於テハ一般ノ授受スルハ好マサル傾
 アリテモ、載寧郡ノ金部ニ通用シ、鳳山信川安岳ノ三
 郡ハ過半授受スルモ長湍長連松亦ノ三郡ニ至
 在朝鮮國鎮南浦 日本領事館
 ツラハ殆ト使用セズ唯市場ニ於テ各商人ノ間ニ少數
 ノ流通スルハシ
 一二分五分白銅 富港附近ニ於テハ五分赤銅ニ亞テ稍
 差支テハ流通スルモ是トテ好ミテ授受スルハ非ス昔海
 道ニ於テハ金部通用セズト云フモ不可ナク唯京城及
 海州ノ往復ニ商人等ハ携帶上便利ナルヲ爲シ僅少
 ノ授受ヲナスシ
 一一分銀 富港ニ於テハ昨々日ノ編ハ、モ白銅又ハ赤銅
 ノ如ク多數ヲ用スル目ノ白銅ノ同ク京城行ノ商人等リ
 間ニテ又授受シ、シテ一般ニ授受セズ
 一五分銀 富國ノ通貨中ニマツテ在モ流通區域狭
 カシク富港附近ニテハ日ノ編ハ、ノ其鑄造セリ
 タハ事實スル知ラサル人多シ

一〇四

42

其の意

旧亦邦銀貨、華銀、次之廣く授受ス。香港商人等、
 内地に入り、米穀買入ニ、皆亦貨ヲ使用ス。為ノ韓人
 間ニ信用奪、昨年有極、銀貨不通、一併以米無
 極、銀貨又一、換程ヲ未タセシモ、漸次回復シ、當今ハ
 差支ナキ、且、而シテ有極、銀貨モ亦亦通用、
 支ナキトナリ、居ル、深シ、當今ハ、今ハ、四階、流通
 セ、其際不便ヲ感ス、由、頃日、韓國、當該官、極、
 ノ上官、應、ハ、論、民間、於、モ、安、ハ、授受、ハ、決、
 シ、ハ、故、今後、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
 為替、当地、於、未、タ、為、授、便、用、ト、為、メ、現、金、賣
 買、ヲ、外、ハ、然、レ、モ、亦、支、店、ヲ、ハ、リ、又、ハ、京、城、ハ、有、ル、モ
 ハ、各、郡、守、ヨリ、政府、ハ、上、納、ス、ハ、納、金、ヲ、轉、用、シ、亦、支、店、
 ヲ、京城、度、支、部、ハ、上、納、ス、以、テ、為、替、ハ、ハ、用、ヲ、ハ、ス、モ、ハ、
 是、ハ、便、ヲ、得、ル、モ、ハ、莫、シ、ニ、有、力、家、ハ、此、
 便、ヲ、得、ル、能、ハ、ス、昨、今、ハ、漸、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
 全、携、帶、者、塔、ニ、来、リ、船、積、証、ヲ、抵、当、ト、シ、現、金、ヲ
 代、具、與、ス、ハ、方、法、ヲ、所、設、ス、為、メ、亦、邦、輸、出、貨、物、
 對、シ、テ、頗、ハ、便利、ヲ、得、ル、至、リ、ハ、ハ、亦、邦、輸、入
 之、ハ、貨、物、ハ、村、ニ、ハ、未、タ、為、替、法、ハ、便、シ、ク、モ、未、春
 ニ、至、ル、ト、ハ、一、銀行、ハ、於、テ、亦、港、ニ、出、張、所、設、置、ノ、計、劃
 マ、リ、ト、聞、ク、果、シ、然、レ、ハ、中、ハ、全、融、上、非、常、ハ、便、益、ヲ、與、
 從、テ、貿易、上、著、大、ハ、發、達、ヲ、見、ル、ハ、疑、ヲ、容、レ、ハ、ハ、
 當、國、ニ、於、テ、ハ、全、銀、貨、高、ハ、未、タ、之、ヲ、確、知、ス、ル、ニ、ハ、便、シ、ク、
 且、輸、出、ハ、大、丸、ヲ、能、ク、如、シ

在朝鮮國鎮南浦

日本領事館

輸出ノ部

輸入ノ部

2,5

記録課長

明治三十三年一月廿九日

82

別紙

清書

明治三十三年一月廿九日 起草 表四

西澤

主任

通商局長

弄

大藏大臣宛

外務大臣

韓國貨幣制及、變革并、貨幣市場之對立量況等ヲ調査、議、

外務省

己亥年九月廿六日付乾第一八四四号ヲ以テ、
示、照会ノ趣了承取、被因テ右ノ調
方在韓公使及各領事ノ申遺遺ニシ
置、被處今般在韓公使及鎮南浦領
事所事務代理者報告別紙二道到着
時、右ノ紙及被送附致也

別紙 受取、四号在韓公使所、報告書一冊
受取、七号在韓公使所、報告書一冊

明治三十三年一月十三日 主簿 通商局

第一三三号

受第一六一七號

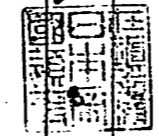
官報部送付済
官報掲載

昨午十二月廿日付 録公一〇八号ヲ以テ及回答候事 國
通貨ノ景況報告漏ノ左ノ通ニ追加相成度此後
申進ニ敬具

明治三十三年一月十四日

在 録 南 浦

領事館事務代理 桐野弘



通商彙纂

通商局長 杉村濬殿

一 外ニ本邦舊銀貨ノ下ニ日本紙幣一種ヲ加ヘ
ハ種トス

在朝鮮國鎮南浦 日本領事館

日本紙幣 亦同ノ重ニ亦邦人同ニ授受カシキ
附近地ニ授受カシキ時亦邦人ト取引スル韓
人等ハ同々授受スルコトヲ天啓ニ教フルニス

3-1188

0164

明治三十三年二月十五日

明治三十三年二月十五日
同 八年八月十五日
日發遣

明治三十三年二月十五日

男紙

津島校印

通商局長 閱了

主任

針務次官

大藏次官花

貴省依頼ニ係ル韓國金融貨幣ニ関

スル在鎭南浦桐野領事館事務代理ヨリ

報告書ハ去月十日附送才九辨ヲ以テ

外務省

送附置キ處今般更ニ右報告書中記載

漏ノ分左記ニ通リ報告致シ付此形以

即通知也

副紙鑑別部三郎信報先中「」閣書中係

送附「」

海軍軍

75
17

通商警察
印

元山港本日領事館

冊三第百五日接

公第一三三號

青港航路ハ為留狀也彼我通貨流通
ノ事及昨辛酉年中ハ妙全、輸送高率
源ニ由申越相成候大存有指定、事項
ヲ標準トシテ別紙通シ、調査及報告候間
御査閱ノ上可然申計、申付此致申進候
致具

明治三十三年一月廿九

右元山

領事 杉村清毅



外務省通商局長 杉村清毅

明治三十三年二月十日記録課接受

二月

元山港に於ける韓國通貨貨券は在邦紙幣

幣流通の如き也
韓國通貨貨券は彼等銀即ち俗に所謂韓錢

除り外各種の紙幣幣券は概して人民の信用を

重んずる好まざる其受取に應ずるに至りては

治廿七年^{舊曆}申^國制^造、彼等韓國新貨幣條例

に基き鑄造せられたる銀錢五分、白銅貨五分赤

銅貨五分、如きは再々韓民の嗜好甚極、遂に割引

ラ以テスルモ尚ホ且つ受取拒り、境涯に立至リ

タルニテ拘録々我各留地へ流入、傾向ラ生シテ

ヲ以テ我各留地へ一昨年、年報中、所轄ノ

通之の如く一掃、棄テ去リ、其後於テ我各留地

在韓國元山港 日本領事館

に於テヤウシナリ之に次テ又彼一兩銀貨三三三

モ韓民の嗜好甚極、遂に割引

引ラ以テ僅カニ市中に流通セルヲ見ル、ミナルカ

貨券亦我各留地に漸く其影跡ヲ藏ントスルモノ

の如し之に及シテ在邦紙幣、韓民の信用

101

55

3-1188

0167

片桐

一、便り鳴る所より一般紙幣中、最も韓人
 敬重する愛されるは、亦由大臣、像アルモノナリ
 ト然るに、政府存せしテ、金々一月紙幣、四枚ヲ
 了し、先、後五、五、金々、カ、之、代、リ、テ、汎、ウ、韓、國
 民、信、愛、シ、受、ケ、ル、ニ、至、ル、ヤ、否、ヤ、ハ、韓、國、民、理、想、テ、
 富、裕、程、度、ニ、照、ラ、シ、頗、ル、疑、ヒ、アリ、ト、云、ハ、サ、ル、可、ク、キ、ル、モ、五
 十、錢、銀、貨、カ、早、能、ク、國、民、ノ、好、用、ス、ル、所、ナ、ル、ヘ、キ、ハ
 旧、円、銀、ノ、使、用、シ、テ、容、易、ニ、推、知、ス、ル、ヲ、得、ク
 キ、カ、如、シ、テ、茲、ニ、客、年、一、月、以、降、十、月、ニ、至、ル、段
 我、他、國、幣、ヲ、輸、入、額、ヲ、察、ス、レ、ハ、左、ノ、如、シ

輸入、部
 (海關統計、按、云、々)

貨物種類	日	本	釜	山	末	開	港
日本銀貨	一、五〇〇						日本領事館
日本紙幣	一〇、〇〇〇						
韓 錢	二二	八三、五〇八					二三、七七四
輸出、部							
貨物種類	日本	支那	浦	釜	山	仁	川
日本銀貨	一、一〇〇	四、三〇〇	三、三〇〇	四、九五〇	四、五二五		
韓 錢	五、三六〇	—	—	一、二七二	—	三、九二〇	九、五二七

1011

七

元山港ニ於ケル為替白状

當港十八銀行ニ於テ取扱タル客年七月以降
 十月ニ至ル為替金額ノ合計ハ百拾六萬六千
 九百六拾一月取扱錢ニシテ其内各地ヨリ為港ニ
 向テ取組タル金額ハ合計百拾一萬五千四百半
 七月四拾九錢多港ヨリ各地ノ向ケタルモノ合計
 七拾五萬一千五百三拾七十一錢ナリ今之ヲ其月次
 並ニ各手形ノ細別シテ示スルハ即チ左表ノ如シ

各地ヨリ取組タル為替手形

月次	送金為替手形	割引手形	代金取立手形	荷為替手形	合 計
七月	二二二九一四〇	二二三五〇〇〇	二二六四〇八〇	五〇六六二〇三〇	六六、五四〇、二五〇
八月	一五、五八四、三七〇	一、九八、六七〇	二、七三七〇、三〇	五三、六七、一〇〇	七三、一九七、一七〇
在韓國元山港					
日本領事館					
九月	一八、七三六、三二〇	二、二〇〇、〇〇〇	二、六九〇、二〇	六、四二四、一一〇	八〇、九五〇、六三〇
十月	一五、三五三、九八〇	三、五五四、六〇	一、八七、七四〇	八、三三九、三二〇	一四、一三九、九〇〇
十一月	七、三七〇、四一〇	二、四七、三二〇	五、八四、五〇	七、四九六、二〇	九、六二九、五四〇

各地ノ向テ取組タル為替手形

月次	送金為替手形	割引手形	代金取立手形	荷為替手形	合 計
七月	三三、九七八、四四〇	—	二〇〇、〇〇〇	一三、七五〇、〇〇	五五、九四四、四四〇
八月	二七、八七六、一〇〇	四、一五〇、〇〇〇	一、〇二〇、〇〇〇	一、三三六、五八〇	三三、七二六、八八〇
九月	五、六六九、四六〇	—	一、〇〇〇、〇〇〇	八、三三〇、〇〇〇	三九、六八九、四六〇
十月	四、一一七、三八〇	—	二、七〇〇、〇〇〇	八、三七三、〇四〇	一五、五二〇、四二〇
十一月	九、八五七、三一〇	—	三、〇〇〇、〇〇〇	一、八〇九、六四〇	一四、六六六、三九〇

又当十八銀行諸為替料ハ金融ノ緩急ニテ常
 一定ナラズトモ年比七月以來ノ最高最低ヲ舉クルレハ
 送金手教科ハ百月ヨリ最高五十錢最低廿錢

1031

100

新為替ハ最高一圓ヲ錢ヨリ八十錢而シテ其期日ハ十
三日ヨリ最長トシ七日間ヲ最短トセリ割引日歩ハ五歩
ヨリ四歩ノ間ニ昇降能スル全利ハ最低三歩七厘
ヨリ最高五歩ノ間ニ在リ

七五

在韓國元山港

日本領事館

22

3-1188

0170

一〇五

昨三十二年申元山港砂金ノ輸出高
 昨三十二年申、於ケル元山港砂金ノ輸出高ハ合計
 九拾八萬一千三百三十二兩ニシテ内申、七拾五萬八
 千七百兩支那、拾九萬零六百三十四兩ハ是
 一、千九百零四年ノ今之ヲ細別スルハ即チ左
 表ノ如シ

月	日	本支	那支	釜山	合計
一月	四九、三二八	二〇、一二四	—	六九、四五二	
二月	四六、三二二	一四、四二〇	—	六〇、七四二	
三月	一七、一六四	一〇、九四〇	—	二八、一〇四	
四月	四九、六七六	二一、九四〇	—	七一、六一六	
五月	三八、四五九	五、五二〇	—	四三、九七九	
在韓國元山港 日本領事館					
六月	九三、〇九六	三、二六〇	—	九六、三五六	
七月	九一、五八八	四、〇八〇	—	九七、六六八	
八月	七〇、七六九	四、六〇〇	—	七五、三六九	
九月	六五、四一〇	二七、九六〇	—	九三、三七〇	
十月	七〇、四五二	四五、〇四〇	—	一一五、四九二	
十一月	七九、〇一五	一九、六〇〇	—	九八、六一五	
十二月	一一四、四二一	一六、一五〇	—	一三〇、五七一	
合計	七八五、七〇〇	一九三、六三四	—	九八一、三三二	

有山

07

4

録録長

明治廿三年二月八日受

浄書備校正

事務同

明治廿三年二月九日發遣

通事局長

社

送送三記號

大飛送

次方

科元山境に於て方勢状況は概ね通達流面

ノ目録及内容年中抄録抽出等々目録ニ事

致事終ニ標準ニして其外通達流面

外務省

同趣旨に備へて其外通達流面

時

（以下第一号）附録ニ事ニ付テ其外

公債第七回號

韓國通貨ノ現状

韓國通貨ノ件、聞シテハ客年十一月廿日附公第ハ十五
 号ヲ以テ當館ヨリ詳報、及ヒ且他ノ各館ヨリモ時々報
 告アリタルヲ以テ既ニ世人ノ周知スル所ト思考スルモ所謂
 補助貨ノ發行高殊、其最モ主要ナル白銅貨、發行
 高等ニ至リテハ統計ノ扱ハキモノナキ團柄トシテ專ラ
 臆断ニ過キヤリシガ近時或ル事情ヨリ其製造並ニ
 發行高ヲ詳ニシ加フル、幣製紊亂ノ結果我商人等
 ノ迷惑日一日、其度々高ルル、有様ナル、有之ヲ再報
 スルヲ決シテ無益、アラサルヘキ乎

去ル明治廿七年貨幣條例發布以來今日ニ至ルマテ
 韓國政府、於テ鑄造シタル新式貨幣ナル者大數ハ

左ノ如シ

在朝鮮軍京城日本領事館

五兩銀貨(我壹圓)	五萬圓
壹兩銀貨(我貳圓)	九萬圓
貳角五分白銅貨(我五圓)	貳百九拾五萬圓
五分赤銅貨(我壹圓)	五拾萬圓
壹分黃銅貨(我貳圓)	壹千圓

即チ合計凡叁百五拾萬圓ナリ然ルニ右ノ如ク白銅貨赤
 銅貨濫鑄ノ爲ノ良貨ハ無論市場ヨリ駈逐セラレ五
 兩銀先ッ形ヲ缺ノ迄時、至リテハ尙面銀モ亦殆ント
 皆無トナレリ額テ彼ノ葉錢ナルモノヲ見ル、其内善
 良ナルモノハ殆ント我金貨ト同一ノ價格ナルヲ以テ(我
 金貨壹圓、付韓貨壹圓於五圓ト假定ス)以葉錢六
 百七拾五枚以目形壹枚於五圓トスルハ百斤、付我金貨貳

以後省(通)

三二二八

瑞

於釜山六於九錢ニシテ若し是故是又貳分トスレハ百斤、付
我金貨於九四七於五ギトナル然ル、我邦、テ黃銅地金ハ
百斤上等貳於七八四ヨリ釜山四中下貳於四五四ヨリ貳
於貳四位ナル由是、葉錢ハ我金貨ト價ヲ均クスト云フ
所以ナリ)是亦漸次鑄減シテ海外、輸出セラレ現存スルモ
ノハ貳百五十四内外ニシテ如何、多クトモ釜山五十四、上ルコト
ハシ、アラサルハシト、コナリ故、先ツ其中同ヲ取リテ貳百
五於五十四トシ之、白銅及赤銅貨ヲ合テ總計六百萬四ヲ
以テ全國、於テ韓貨ノ現在高ト見レハ中ラスト策ニ
決シテ遠カラサルヲ信ス

在朝鮮國京城日本領事館

サル、遠シ独リ白銅ハ其額寧ロ葉錢、上、出テ而シテ
流通区域ニ至リテハ單、京畿道全部及忠清道ノ一
部ニ過キス其價格、底落周ヨリ恠ロ、ミラサルナリ試
、昨年一月以來今日ニ至ル迄其相場ノ變動ヲ見ル、實
、別表甲乙兩号ノ如ク、一時米穀輸出期、於テ昇騰シ
タルヲアルモ其時期ヲ過クレハ次第、又底落、傾キ之ヲ
概スル、現今ノ發行額ヲ以テセハ我金貨、對シテ釜山五
ギ乃至四於五、打歩ヲ平時ノ相場ト見テ差支ナカラン
況シテ前陳白銅鑄造高貳百九於五十四、内九於五
四ハ典圖局ニ在リテ未タ市場ニ出テス且未極印ノ白銅
地金亦釜山五十四ノ貯藏アリ故、以テ未發行貨幣ニシテ
愈、市場、出ル曉、ハ白銅貨ノ價格ハ今日ヨリモ尚一
層低落スレ蓋シ同貨ノ流通区域ハ漸ク追フテ

多少擴ナルハキ傾向ナキニアラスト雖其擴張ノ度
 合ハ濫發ノ速度ニ比スルハ遠シクハ故ニ益々現
 市場ニ向テ過溢ヲ告リヤマハ論ヲ俟リス加フルニ去月
 中旬ハ於テ別紙丙号ノ通り救命ヲ以テ李尚植外一名
 ニ補助貨私鑄ヲ特許セラレ同人等ハ目下其發行ノ計
 画中ナル由尚其他ノ一名ニモ同様ノ許可アリタルヤノ風聞
 アリ故ニ旁々白銅貨ノ價格ハ他ノ事情ナキ限リ但落
 ノ一方ニ向テ到底避クヘカラスト見ルノ外ナシ

本位貨ナクシテ而カモ補助貨ト稱セラル、白銅葉錢等、
 商業上、及ボス弊害ハ今日ト雖比既ニ甚クシク假リ、
 其一斑ヲ舉レハ

一、輸入品ノ販路ヲ阻ロシ

一、相場ノ變動常ナラザルヨリ商業上ニ不安ヲ來レ信

在朝鮮國京城日本領事館

用賣買ヲ阻碍スル一

一、貨幣其モノヲ賣買スル投機業ヲ促シ正業ノ發達
 ヲ妨ケル一

一、債權債務ヲ不確ニスル一

一、贋造ノ容易ナル一

一、計算ノ不便ナル一

一、運搬ノ不便ナル一

等ハ其重ナルモノニシテ例ハ其運賃ノ如キ京城内ニ
 テハ壹千四迄於貳貳地方ハ於テハ壹里拾貫文ハ於
 テハ貳宛ノ割ナリト尚一層見易キ例ヲ取レハ馬一匹ニテ
 四於田分一人ニテ於八田分ノ葉錢ヲ運搬シ得ルニ過キ
 ス其不便亦甚シト云フヘシ

例ノ我京仁鉄道ノ如キ日々韓貨ノ收入貳百田内外

ナリト蓋し目下尚工事中ニテ多数、韓人夫ヲ使用シツ、
 マルガ故ニ韓貨ノ用途ハ少ナカラサルモ過般來既ニ多額ノ
 剩餘アリテ一時ニ之ヲ賣出ス時ハ價格益々下落ス、キヲ
 以テ其始末、窮シツ、アリ米人、経営、係ル電気鉄道
 モ亦同様ノ事情アルヲ以テ更ニ我在韓郵便局ノ關係
 ヲ見ル、過般來郵便印紙ハ一人一時、一四迄ハ韓貨ヲ以
 テ日本貨ト同様、見做シ賣下ルトナリ電信料モ亦
 印紙貼用ヲ以テ仕扣フニナリタル故利益、抜目ナキ商
 人等ハ無論出來得ル限リ韓貨ノミヲ使用シ而シテ郵
 便局、於テハ受取リタル韓貨ヲ日々銀行、渡レ一定
 、相場ニテ日本貨、換算シタル上其換算日本貨
 以テ收入、立フル都合ニシテ手續上、面倒ハ去フニ及
 ハス右換算相場ナルモノハ毎月豫メ銀行ト協議シ
 テ定ムルモノニシテ勢ヒ時價ヨリハ低廉ナルガ故、(元來
 銀行ハ韓錢ヲ授受セス郵便局ノ依頼ニヨリテ特ニ之ヲ
 取扱フモノナルガ故、毎月ノ相場ハ勿論安全ヲ取リテ
 廉價ニ見積リ若し郵便局、於テ不同意ヲ唱、ナハ授
 受ヲ拒ム迄ナリ)換算上政府ノ損失、歸シ收入、減
 少トナルハ亦決シテ尠少ニアラサルハレ況ンヤ印紙貯金
 ニ至リテハ韓貨ヲ以テ貯金ヲ受取リ日本貨ヲ以テ仕扣
 ハサルヲ得サル現今ノ制度アルハ相当ノ資産アル商人
 迄之、從事シテ利益ヲ因ルガ如キ弊害ヲ生レ國庫
 ノ損失喋々ヲ須ヒスレテ明カナリ

右ノ如キ政府ノ損失ハ一令ノ下ニ之ヲ拒キ得ハレト雖モ
 弊害ノ基ハ其歸着スル所韓國ニ在ケル補助貨濫
 發否ナ一步ヲ進レテ論スレハ本位貨ナルモノナリ幣

在朝鮮國京城日本領事館

制紊乱ノ結果ニ外ナラス一兩年前迄ハ我壹圓銀貨
ナルモノ多ク入込ニテ自カラ本位貨、溢ラレ且又白銅
貨ノ鑄造高モ少ナカリシヨリ能ク價格ヲ維持シ居
タルモ其後一圓銀ハ悉ク海外ニ出テ一方、我ニ又白銅貨
ノ濫造濫發トナリタルヲ以テ終、上陳ノ如キ不幸ナル
状態、陷リタリ加フル、一圓紙幣亦續々我邦、回収セ
ラレ之ヲ補充スヘキ我五十錢銀貨ハ韓人、不向ナリ
此等幾多ノ事情ヲ綜合シ来レハ實、韓國貨幣制度
ノ改良ハ要務中、要務ト云フヘク此点ニ関スル韓廷並
、他國ノ運動等ハ他、詳報スル所アルハレ
因、記ス在京城清商同順泰ハ別紙丁号畧圖ノ如キ
一種ノ約束手形ヲ發行シ其形状ト云ヒ其信用ト云ヒ全
ク兌換紙幣ト異ナラス其種類ハ五兩、百兩、五百兩
千兩、四種アリテ發行總額ハ不明ナルモ少クは於五六万圓
ヲ下ラサルヘレト云フ

在朝鮮國京城日本領事館

右ハ昨年春頃ヨリ始メテ發行シタルモノ、由アルガ交換ニ
確ナルガ為メ今日、至リテハ其信用正貨ト異ナラス現
、度支部、於テモ之ヲ受取ル程ナリ若シ貨幣制度ヲ
根本的ニ改良スルノ到底行ハレ難シト假定セハ我銀行
等、於テモ之、做フテ正貨ノ授受運搬等ヨリ来ル不
便ヲ避ケルノ道ヲ講スルモ亦已ラ得サルノ事タルヘレ
右及報告候敬具

明治三十三年六月十一日

在京城領事 山座圓次郎



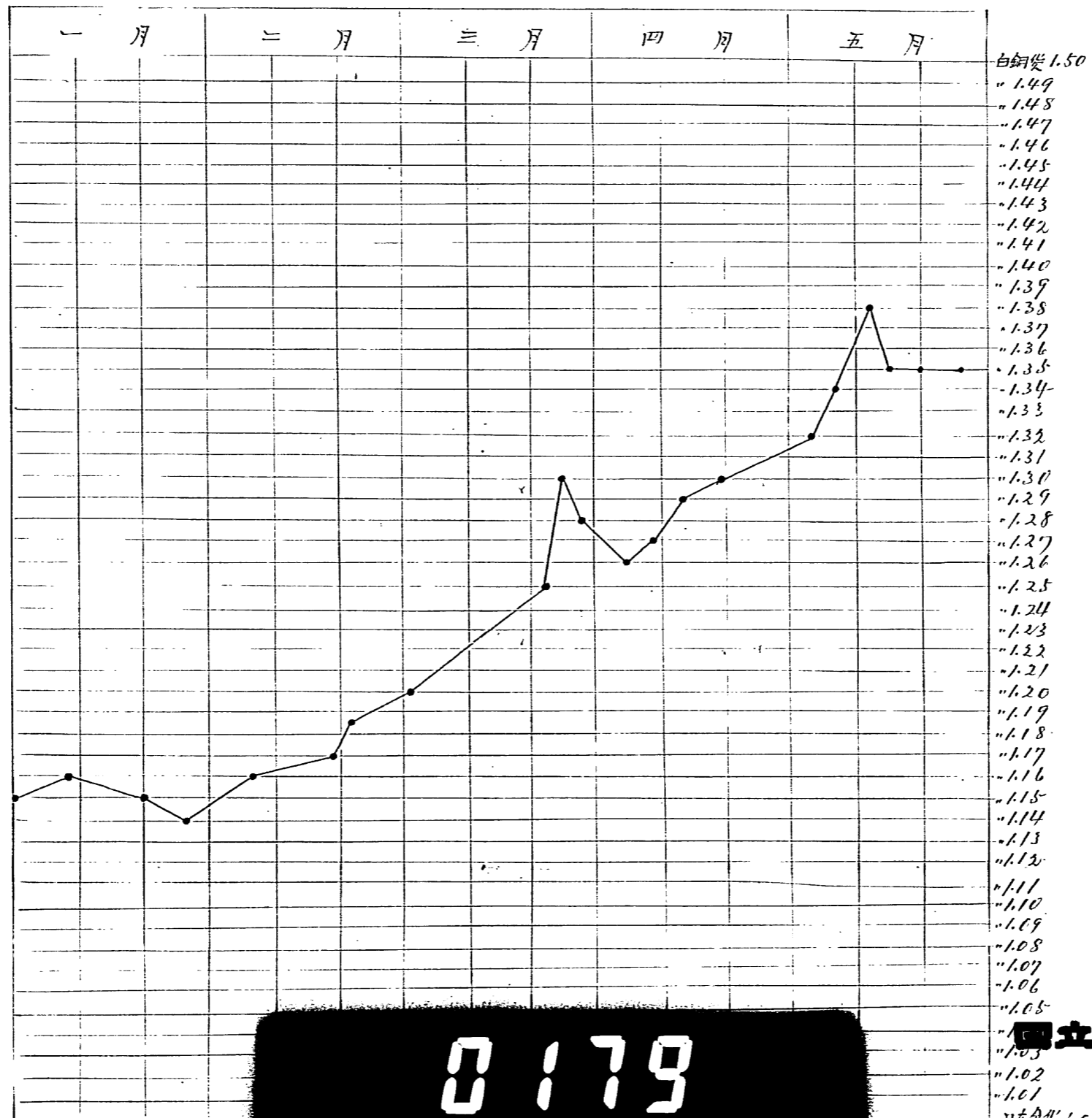
外務大臣子爵青木周藏殿

追テ本日引込ミタル所、ヨシハ大阪鹿島銀行代表
 者安井某当地ニ来リ例ノ白銅私鑄ニ関レ内密
 特許者等ト交渉シテアルモノ、如ク又増田
 信之モ銅地^五方^五斤^五仁川ニ送來リタルヤ、風聞アリ
 尚確報ヲ俟テ或ハ更ニ再報スルコト可有之不取
 敬申添候

在朝鮮國京城臣本願事謹

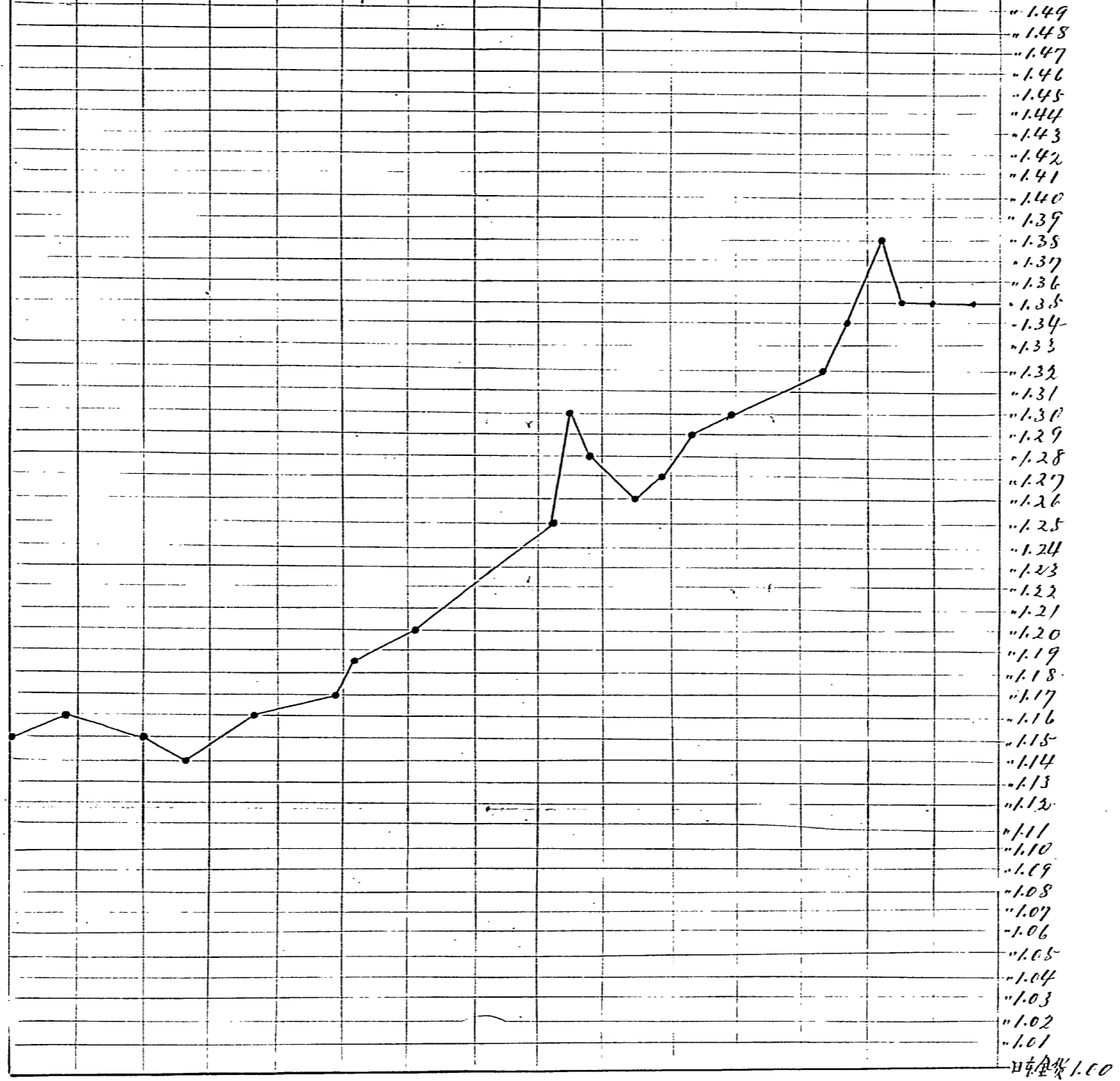
甲号

昭和三十三年一月一日乃至同五月末日間成流平均対比、韓国白銅炭打炭高低表



3-1188

0179

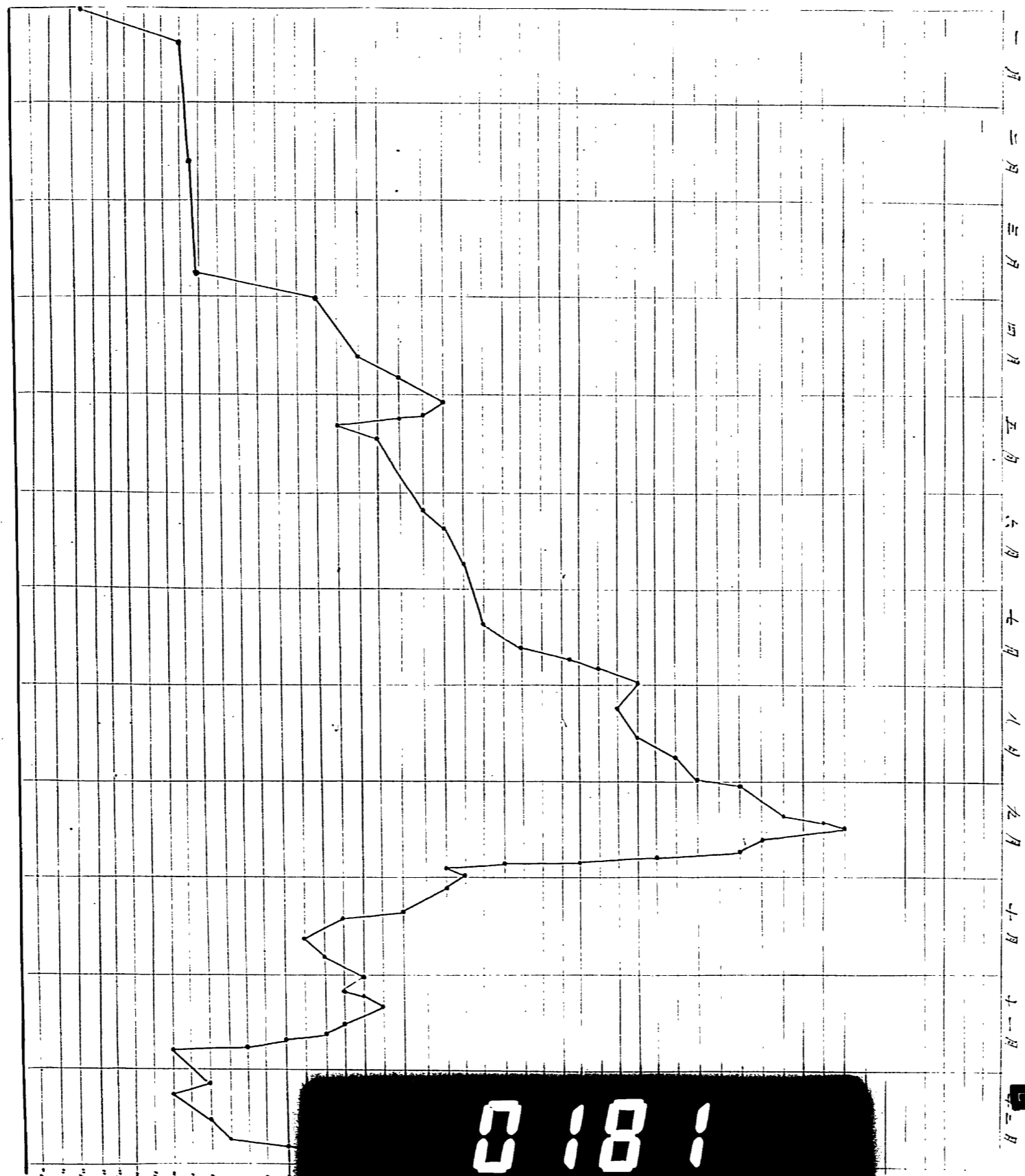


1.00

3-1188

0180

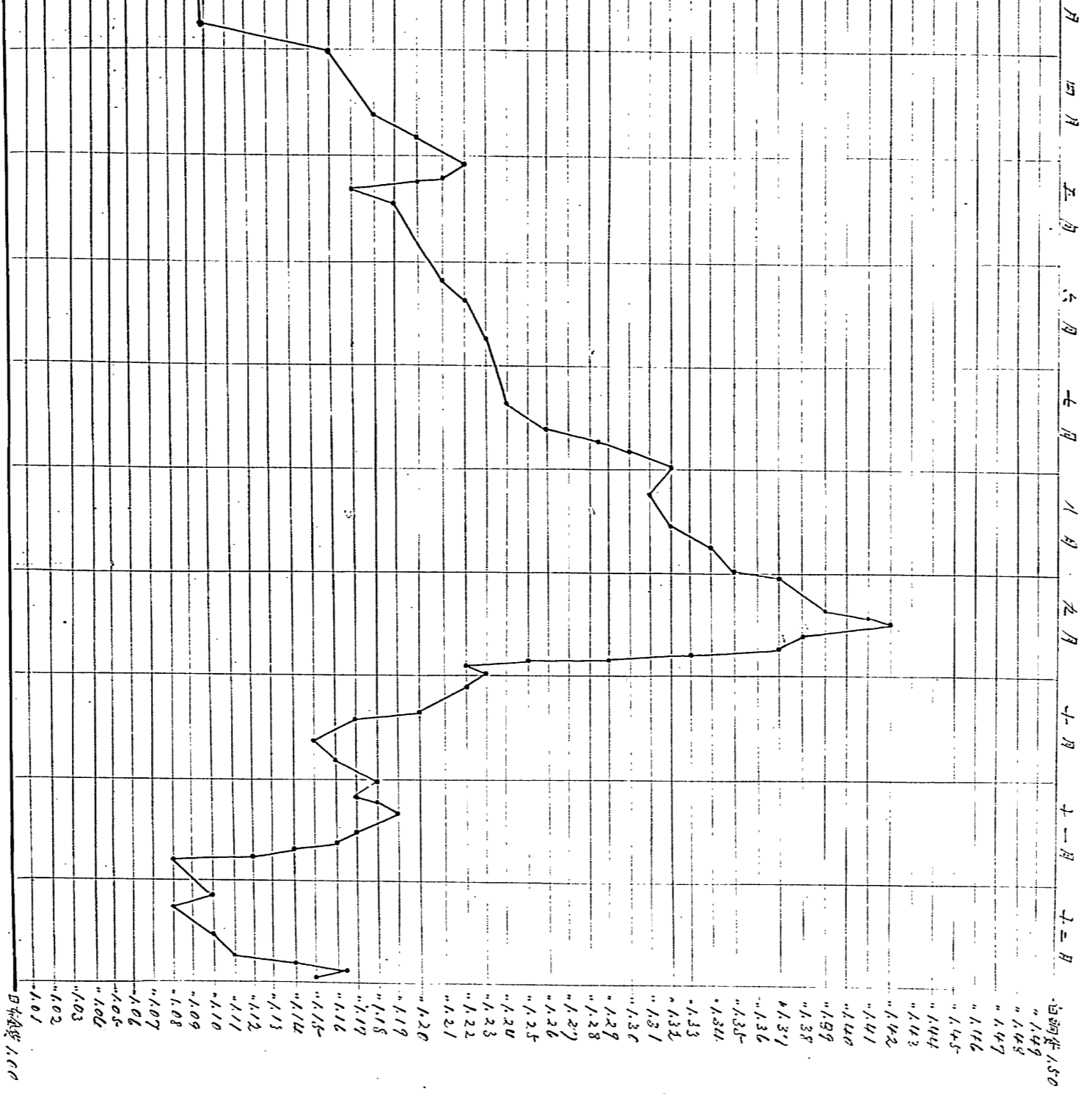
3-1188



明治三十二年中央
 京城：新刊日本金貨
 對朝鮮國白銅貨打金高化率

0181

明治三十二年中京城・神戸・日本各貨・對朝鮮國貨打掛高價表



2 5

公信市七回附為

丙号

特下補助貨鑄所是某地方外
取其便宜之件黙許を以器械與資
本之自備品上納條を逐朔一日之來
納事

委負

李尚植

李聖根

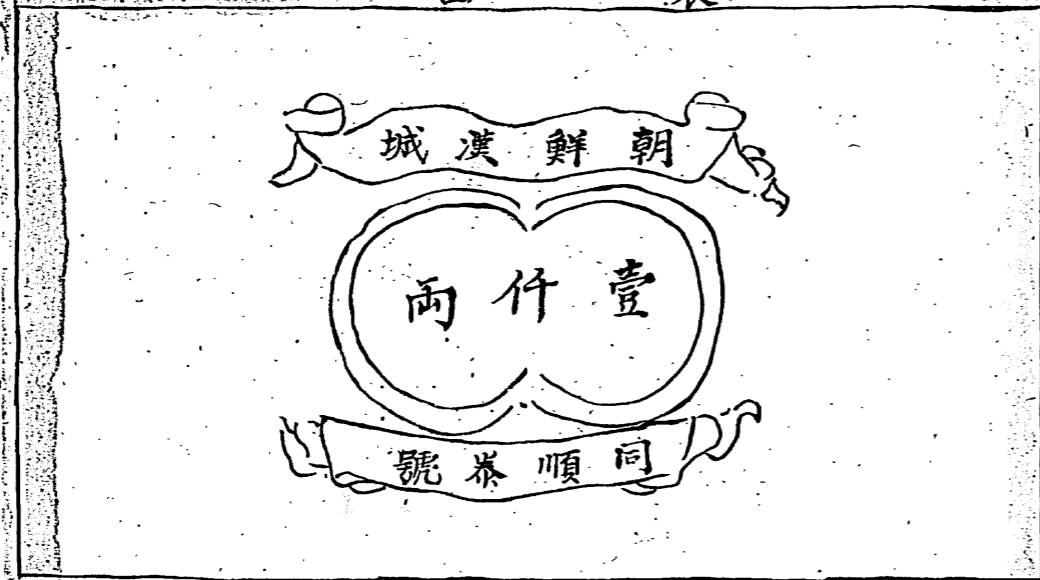
光武四年五月十四日



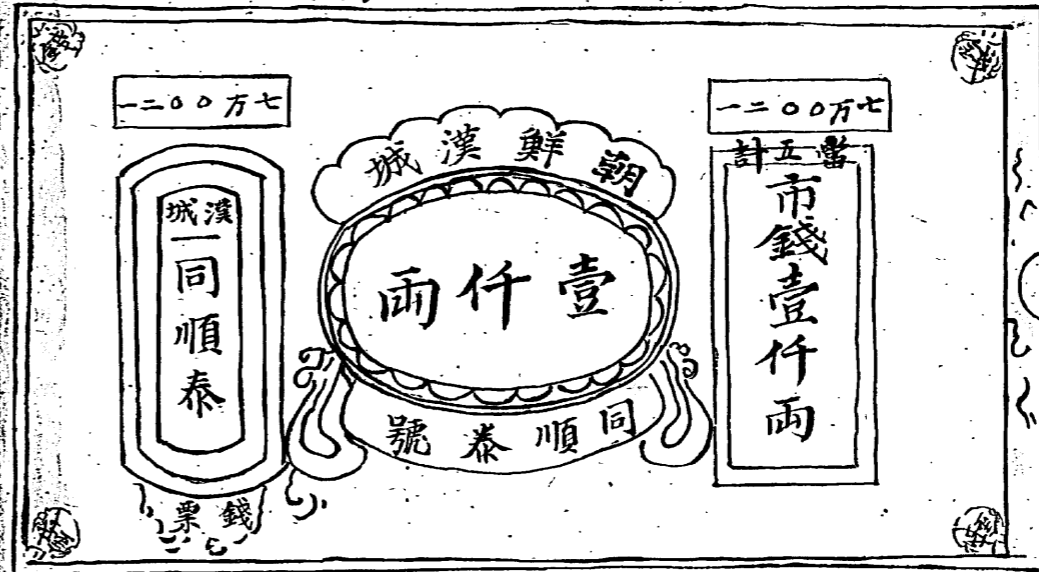
在朝鮮國京城日本領事館

丁号

東面



表裏



備考

一、彫刻ノ綿密ナル描画ノ
意匠ノ巧美ナル亦紙
幣ノ背面ト異ナラス模
様ニ倣ニ濃厚ナル金
柑色ヲ用ユ
一、中央「仟兩」ノ文字ノ上ニ
朱判ヲ捺ス

備考

一、紙質上等「鳥ノ子」洋紙ニシテ
長幅共圖ノ如シ
一、紙色一俣ニ淡黄色ニシテ扉内
悉ク美麗ナル花紋ヲ青色ニテ
描キ且輪廓及花紋共彫刻綿
密ニシテ履造ヲ容易ナラザラ
シム
一、右方「市錢壹仟兩」及中央「壹仟
兩」ノ文字ノ上ニ彫刻最モ綿密ナ
ル朱判ヲ捺シ左方「漢城同順
泰」朱判アリ
一、要スルニ見シテ紙幣ト異ナ
ラサルホド大俣ノ結構美麗ニ
シテ且綿密ヲ極ム

總務長官

明治三十三年六月廿九日發達

通商局長

明治三十三年六月廿九日發達

主任

課長

紙

要

淨

送簿 七三號

大藏總務長官宛

右通

外務總務長官

外務總務長官宛

韓國通貨ノ現状ニ關シ別紙字通在京城山座領事

ヨリ報告有之候旨爲御参考及御通報候也

外務省

唯而右報告ニ添付ノ甲之及丙号別表ハ省署致候

別表ハ信弁七四号字添付但し甲之及丙号別表添付也

料金通貨ノ現状

釋國通貨ノ件ニ案ニテハ九月十一日廿日附ノ第百十五号
 以テ留銀ヲ誰教ニ及ビ他ノ各銀ヲモ時々報告アリタルヲ以テ
 既ニ吾人ノ固カク思考スルモ所謂補助貨ノ發行ニ言殊ニ
 其最モ重要ナルハ銀貨ノ發行ニ言及スルニハ既計ノ極ルヘキモノ
 ナキ固極トシテ考ラシ信財ニ及ビキサリシガ迄可成ル予情ヨリ其製
 造條ニ發行ニ言ラシテシカフルニ幣制ニ及ビテ果我ニ商人等ノ注意
 力ニ及ビテ發行ニ言ハルノ有極ナルニ甘之ヲ再報スルニ決シテ言及ス
 アラサルヘキ事

光緒廿七年貨幣條例各布以自今ヨリニミテ釋國
 政府ニ於テ造幣ニ及ビ新式貨幣ナル者ヲ數ハルノ如シ

- 五五銀貨(我々同) 五二万圓
 - 五五銀貨(我々同) 九一万圓
 - 貳貳五五銀貨(我々同) 五五九萬五万圓
 - 五五赤銅貨(我々同) 五萬万圓
 - 五五赤銅貨(我々同) 五萬圓
- 即チ合計凡多ク五萬万圓ナリ然レドモ此ノ如クハ銅貨赤銅貨
 濫發ノ者ニ及ビ銀貨ハニ言テ切リテ既ニ及ビ五五銀貨ニ及ビ
 銀貨ニ及ビテハ其最モ重要ナルモノトシテ既ニ及ビテ

在名鐵ナルモノヲ見ルニ其由著クシモノハ強シト家金債ト
曰一ノ價格ナルヲ以テ(我全債)是月ニ付神債を内各終五
五ト膨之ニ以テ其由著クシモノハ強シト家金債ト
可介ノ付我全債或は終各月ニ付九終ニシテ著クシモノハ強シト
カトスレハ可介ニ付我全債或は終各月ニ付九終ニシテ著クシモノハ強シト
我全債或は終各月ニ付九終ニシテ著クシモノハ強シト
内ヨリ或は終各月ニ付九終ニシテ著クシモノハ強シト
ノ付以テ(是亦)著クシモノハ強シト
ハ少シク内内カトシテ著クシモノハ強シト
ハ之レアラサレベシトノ付九終ニシテ著クシモノハ強シト

第四トシ之ニ由テ我全債ヲ令セ終計六万第内ヲ以テ全
國ニ於テ神債ノ現生言ト見レハ中ラスト其に決シテ著クシ
ヲサルヲ行ハ

右ノ神債中葉鐵ノ流通已成ハ最モ著クシモノハ強シト
通ラ時ニ一都ニ於テ白銅ニ歴セラルル赤銅ニ終各月ニ
トシテ各地ニ散在スルモ其流通額初ヨリ他ノ二項ニ及ハサレテ遠
し雖も白銅ハ其流通額ニ著クシモノハ強シト
リテハ四年ニ著クシモノハ強シト
概ノ底底同ヨリ著クシモノハ強シト
ニ著クシモノハ強シト

一時米穀騰出期に於て日殊騰貴を呈してアムモ生妙期を遂
 じハ波第ニ又底意に傾キ之ヲ概テ現存ノ穀行狀ヲ
 以テモ我々は因ニ對シ於五米乃至以概テノ折衷ヲ平
 何ノ極上見テ為シ支ナカラシ況ニヤ東洋米騰貴は之を以
 九折五折内ノ由凡若ク終五折ハ典圖高ニ在リテ去リ市場ニ
 出テス此米極下ノ白銅地金亦多ク終五折内ノ終米アリ故
 ニ此米各行貨物ニシテ無ク市場ニ出ル曉ニハ白銅債
 ノ價格ハ今日より高ニ一層低底迄下ヘシ蓋シ同債ノ流通
 區域ハ漸ク遠クテ多少極マレハ少ク向ナキニテラスト無
 糖米ハ適合ハ濕氣ノ連ニ此ニ比シハ遙ニ降リタル故ニ

暫シ現市場ニ向テ過下溢ヲ出クベキハ海ヲ俟タズ加フルニ
 是ハ中水向ニ於テ別弊而多ク直ノ穀行ヲ以テ本高極
 外一名ニ補助債私債ヲ折衷トシ目人等ハ目下米案
 行ノ計画中ナル由尚ほ他ノ一名ニモ同様ノ穀行アリ
 シルヤノ風聞アリ故ニ考ニ白銅債ノ價格ハ他ノ事柄ナキ
 リ低底ノ一方ニ向テ下底迄過クハカラスト見ルノ外ナシ
 有任債ナクモ此種カニ補助債ト稱スルハ白銅債亦同様ナル
 米上ニ及ボス弊害ハ今日トモ既ニ甚クシク假クモ一班ヲ考
 レハ
 一途ハ米ノ販路ヲ阻ム

3

一 抄写ノ要部等ナラサルヨリ商案ニ不効ヲ来セ信用衰
 買ヲ阻碍スル
 一 便幣モモノヲ考買スル故操業ヲ促シ商業ノ發達
 ヲ好ムル
 一 債権修給ヲ困難ニスル
 一 便造ノ容易ナル
 一 計算ノ便ナル
 一 運搬ノ便ナル

以上を重ナルモノニ例ハシて運送便ノ如キ多量内ニテハ
 在ル内迄於地多地方ニ於テハ甚且於此ニ分七點充ノ
 一 運搬ノ便ナル
 一 運送ノ容易ナル
 一 計算ノ便ナル
 一 運搬ノ便ナル

割ナリト尚一層見ルル例ヲ取レハ馬一匹ニテ四日分人
 人ニ於テハ月分ノ差跡ヲ運搬し得ルニ過キス其便示セト
 云フヘシ

聞ク余亦仁鉄道ノ如キリノ釋債ノ收メ方内由外ナリト蓋
 月ノ當ニ事申シ多量ノ利人更ニ便用シツルハ故ニ釋債ノ用
 途ハ少ナラザルニ過ラズ既ニ多額ノ剩餘アリテ一時ニテ其出
 ス時ハ價格高ク下流スヘキヲ以テ其始末ニお祈シツルアリ米ノ種
 管ニ便シ電氣鐵道ニお祈シテ其利ノ多量ナルヲ望ムル我々
 郵政役員ノ關係ヲ及んニ過ラズ其便用ノ第一ハ一人
 一時ニモ月分ニ於テ其便ヲ以テリ如貨ト同様ニ其便下ルル

上トナリ電信料モ亦市紙紙自ラ以テ仕松アコニナリ故利
 益核目ナキ商人多ハ其端先自降ん限リ特債ノミタ修用ニ
 而シテ新債ヲ与テ於テハ其取リ先特債ヲリト銀水ニ返シ
 一定ノ取柄ニテリ特債ニ換テ希シ先上至極業リ特債ヲ以
 言柄ノミミツン額余ニエテ各換上ノ面倒ハ云フニ及ハス其極業
 取柄ナルモノハ其月後ノ銀水ト帳議シテ空金ニモノミシテ皆
 ニ可償ナリハ低率ナリ故ニ(元々銀水ハ特債換更セズ
 郵便局ノ特債ニヨリテ特債ニ之ヲ取扱フモノナルガ故ニ毎月ノ
 取柄ハ中寄金令ヲ取リテ産債ニモ換リ若シ郵便局
 ニ於テ上回素ヲ唱ヘハ極業ヲ拒ム迄ナリ)極業上政府ノ換

失ニ神ニ取入ノ減少トナルト亦決ヒテ減少ニアラサレニ此況ニテ印
 式貯金ニシテハ特債ヲ以テ貯金金取ルノ事特債多シテ仕
 持ハサレテ得ヤン況今ノ物取ナレハ其高ノ資産アル商人也
 之ニ於テモテ利息ヲ圓ルガ如キ貯金ヲ生シテ亦所
 ノ損失味トラ決ヒテテ取カナリ

右ノ如キ政府ノ損失ハ一令ノ下ニ之ヲ拒キ少クヘシトモ元
 幣信ノ基ハ其端多ク新神商多ク於ケル神妙特債
 溢多ク於テ一歩ヲ進シテ論スレハ其特債ナレモノナリ特
 別空取ノ結果ニ於テラスニ多事亦出ハ我モ自取債
 ナレモノ多ク入込ニテ自カラ特債ノ取ヲナシ且又自取債

お始末の事候矣

明治三年二月十日

とまね候事候事候事

御事候事候事候事

色下かりすはこみん所とヨシハチ候事候事
此奉事候事候事候事候事候事候事候事
由候事候事候事候事候事候事候事候事
之と御事候事候事候事候事候事候事候事

尚事候事候事候事候事候事候事候事
子と候事候事候事候事候事候事候事候事

三年十二月八日陸電

主管 通商部

公信第一三〇號

報送第一二五二號

一七五四

韓貨騰貴の関スル報告

本年下半期に入り当地に於て日貨と對スル韓貨の打歩ハ
 悉く於錢台に於て昂降シツ、アリレガ本月二十三日、至
 リ貳拾八錢トナリ、二十日、貳拾六錢トナリ、二十六日、至
 リ更、貳拾七錢迄下落セリ、斯ノ如ク漸次韓貨の騰
 貴ヲ来セシ所以ハ仁川、於て穀物買出、為ソ今更、
 需要ヲ増加セル影響ニシテ從來仁川、流通スル韓貨
 ハ比較的少ナキヲ以テ穀物買出、時季、至シハ勢ト当地
 、其、供給ヲ仰カサルヘカラサルガ故、其、時季、至シハ
 自然当地に於て韓貨、騰貴ヲ見ルヲ常トス然ルニ
 二十八日、至リ俄カ、於六錢、高直ヲ唱フ、至レリ
 是レ異常、劇變ニシテ其、原因ハ全ク今回韓國
 度支部、於て俸給等、支払ノ為ノ一時、当地、市場ヨ
 リ拾萬圓、韓貨ヲ買収セシ、在リトス然レ此、買
 収セシタル韓貨、不日再ニ市場、現ハレ来ルヲ以テ此
 、劇變ハ單、一時、止マリ、臆テ常態ニ復スルナルヘ
 シ而レテ此、劇變ガ京仁間、市場、如何ナル影響ヲ
 及ホセシヤト云フ、仁川、於て韓貨ノ買方ハ買入ヲ見合
 ハセ当地、賣方ハ買方ノ足下ヲ見込、テ強氣ヲ示レ、雙
 方睨合、迄、テ殆レト一般、賣買ヲ中止セシムル、至レリ
 然レハ仁川、穀物輸出高、在リテハ其、困難少ナカラサ
 ルヘシ之、反シ此、際利益ヲ見ルハ当地、在ル本邦輸入高
 コレテ本邦、仕切、送金上ハ勿論貨物、賣捌上、北テモ
 韓貨騰貴スレハトテ俄カ、物價ヲ引下ルコトナキヲ以
 テ其、利益少ナカラサル、又、今金地、買入ハ日本

官報部送付済

15
1

あつち

紙幣、限ラレタルヲ以テ清商、側、在リテモ本國、仕切ラ

送金ナル者、為ノ、ハ、頗ル好機會、年、一、シルモ、ト、謂フ

ベシ、清商、輸入、子、種、信、ノ、外、人、ノ、手、に、在、リ、テ、本、國、ノ、幣

右、及、報、告、矣、敬、具、

明治三十三年十一月三十日

在京城

領事 三増久 米吉

外務大臣 加藤高明 殿

在京城



手紙の宛先は、外務大臣に宛てたものである。文中には、紙幣の発行と清商の活動に関する内容が記されている。署名は三増久とあり、米吉の印も見える。